

取扱上のご注意

選択上のご注意

- 物性試験データは、商品の耐久性を示す目安です。選択の際には商品の耐久性以上の用途でのご使用はお避けください。
- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認ください。
- 暗所・アルカリ性雰囲気・高温多湿環境下において、床材が変色する可能性があります。このような場所へ床材を施工する際には、変色が発生しても目立たない濃色系の床材を選択することをおすすめします。
- 抗菌性を求められる場所では、抗菌マークのある商品をお選びください。人体に影響が少ない抗菌剤を使用していますが、乳幼児が誤って経口する可能性のある場所でのご使用はお避けください。
- 淡色系・無地調の床材ほど濃色系に比べて汚れが目立ちやすくなります。また、フラットな表面形状に比べてエンボスが深いほど汚れが残りやすくなりますのでお含みおきください。

運搬ならびに保管上のご注意

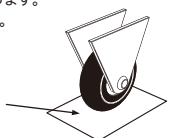
- 重量物のため取り扱いには十分ご注意ください。落下や乱暴な取り扱いは、床材の破損だけでなく、傷害や器物破損などを招く場合があります。
- 縦置きの場合はロープなどで固定し、転倒防止を図ってください。横置き保管の場合は、倒積みをお避けください。
- ご注文の際は、長さが9m巻(約45kg)を超える場合、配送が困難になりますのでご相談ください。

施工上のご注意

- 梱包紙に記載されている品名・品番・ロット・数量をご確認のうえ、施工を開始してください。同一床面上は、同ロットで仕上げてください。
- 幅継ぎをする際は、耳部どうしでジョイントしてください。ジョイント施工が不十分な場合、継ぎ目が破断することがあります。
- 目地入りの商品をジョイントして施工する際、商品の特性上目地が合わない場合がありますので、特に広い面積で施工する場合には割り付けにご注意ください。
- 各商品別に、施工上の注意・接着剤・ワックスなどが異なりますので、商品掲載ページの施工上の注意をご参照ください。また施工する場所の環境や下地の状態により、接着剤や施工方法が異なる場合がありますのでご注意ください。
- 下地は平滑かつ清潔で乾燥して、良好な圧縮及び引張り強度があり、接着力を低下させるような構造的欠陥がないようにしてください。多孔質でもろい下地や粉っぽい下地はプライマー処理を行ってください。
- 不陸は適切なコンパウンドで補修してください。
- 鉛物ベースの下地(モルタル・コンクリートなど)で、新規あるいは土間床の場合は下地水分を測定してください。コンパウンドや接着剤は床仕上げ材と同様に適切な皮膜もしくはその他の方法で高い残留水分や下地の湿気から遮断しておく必要があります。
- 下地にワックス・グリス・油脂類・塗料などの汚れ、ペン・ラッカーやによるマーキングなどが残っていると、接着不良や汚染、変色を発生させる可能性がありますので、完全に除去してください。
- 床材は現場の室温によくなりませてから施工してください。室温と床材に温度差があると、施工直後だけでなく、後日、目地隙・突き上げなどをおこすことがあります。
- 接着の際は、床材の指定接着剤を使用し、接着剤指定のくし目ごで均一に塗布し十分に圧着してください。
- 重量物の移動が想定される場合、下地水分グレードがI(一般工法レベル)の場合でもウレタン・エポキシ樹脂系接着剤をご使用ください。
- 有機溶剤を含んだ接着剤を使用する場合は、火気に入りし室内の換気に心がけ、有機溶剤作業主任者立ち会いのもとで行ってください。有機溶剤は引火しやすく、また多量に吸入すると人体に影響を及ぼす可能性があります。
- 施工中は、他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止してください。
- 施工後、接着剤が十分硬化するまでは、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化はお避けください。特に冬季は接着剤の硬化が遅いので十分な養生期間をとってください。
- 施工直後に養生シートを使用した場合、床材と養生シートの間に結露水や水蒸気・溶剤蒸気などがこもり、床材の反り・突き上げなどが生じる可能性があります。養生シートは、接着剤が十分硬化してから使用してください。
- 養生シートをとめる際、粘着テープは直接床材に貼り付けないでください。床材を汚染する原因となります。
- これらの施工条件が満たされない場合は、目地隙や突き上げ、膨れなどを招く可能性があり、美観を損ねるだけでなく、転倒事故などの原因となります。
- 施工後、残材などを廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。包装紙・紙管などを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分してください。ビニール床材を燃やすと有害ガスが発生する場合があります。

維持管理ならびに使用上のご注意

- 床材は熱によって変色・溶融する可能性があります。たばこや、車輪の摩擦熱、火花の飛び散りなどはお避けください。
- 温風ヒーター吹き出し口にはマットを設置するなどして、温風が直接床材表面に当たることをお避けください。
- 重量物や車輪のしごきによって、床材の表面を傷つけたり、膨れを発生させる可能性があります。引きずったり、にじらないようにご注意ください。
- 重量物の引きずり・ベットの爪など锐利な物での突き刺しや引きずりにより床材が傷つくことがあります。
- 長期間使用しない部屋では換気を心がけてください。結露を招き、カビや異臭の発生、床材の剥がれ・反り・膨れ・突き上げの可能性があります。
- 素材固有の臭いがあります。換気を心がけてください。
- 床材の汚れのほとんどは水拭きでとれます。ほうきや掃除機でゴミを取り除いた後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- しつこい汚れはクリーナーで洗浄し、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- 各床材に応じたメンテナンスを行なうことにより、汚れもつきにくくなります。ワックスにより床材との相性が異なりますので、選定の際にはご注意ください。
- 水濡れや砂が飛散した状態では滑りやすくなり、転倒事故を招く可能性があります。泥よけマットの設置などで雨水や土砂の持ち込みを防ぎ、持ち込まれた際には即座に除去するようにしてください。
- 長時間直射日光があたる場所では、変色する可能性がありますので、カーテン・ブラインドなどで日よけをしてください。
- 家具やハイヒールなどの局部荷重により凹み跡が残る場合があります。
- インクやソース、化学薬品などをこぼしたときは、すぐに濡れたぞうきんで拭き取ってください。
- 化学薬品や強い作用をもつ洗剤・漂白剤などにより、変色や変質を招く場合があります。
- 水・砂・紫外線・重量物・灯油・ベットの糞尿・テープの粘着剤などの影響で、床材自体の変質・変色や、施工後の膨れ・剥がれ・目地隙などがおこる場合があります。維持管理には十分ご注意ください。
- ゴム素材に含まれる老化防止剤、家具の塗料や防腐剤・防虫剤・防蟻剤によって、床材が汚染され変色する可能性があります。使用を避けるか、床材に直接ふれないようにしてください。



タイヤ等のゴム製品が床材と接する際は保護シート(アルミ製・ポリエチレン製)をご使用ください。

下地水分の測定と判断基準について

ビニール系床材は下地との接着力が耐久性や他の諸性能に大きな影響を与えます。そのため施工前の下地水分の確認とそれに応じた接着剤の選定が重要です。その判断基準として水分計の表示値を用いたグレードで判断し、施工方法の目安としてください。



HI-520-2

下地：
コンクリート・モルタル・セルフレーティング材

水分計：
HI-520-2 (選択) D.MODE

設定条件：
(厚さ) 40mm (温度) AUTO

グレード	表示値	従来の下地水分指標	施工方法目安
I	440未満	8%未満	一般工法
IIa	440以上 620未満	8%以上 10%未満	耐湿工法推奨
IIb	620以上	10%以上	施工不可

表示値は静電容量に一次相関のある単位のない数値です。

選択・施工上のご注意

※P.5~10掲載商品

壁紙

1.リピート

- プリントリピートの商品です。エンボスリピートは柄が合いませんのでお含みおきください。

2.キズ・摩擦

- 商品特性上、表面がキズつきやすいため、施工やメンテナンスの際は慎重にお取り扱いください。
- 特に濃色の商品は、ひっかきキズや糊の拭き残しにご注意ください。
- 出隅・入隅への施工の際に、硬い刷毛や布などで強く擦ると表面が白化する場合があります。
- 表面を過度にこすり拭いたりすると、ツヤ感が変わるおそれがありますのでご注意ください。

3.下地・糊付け

- 入念な下地処理を行い、糊ダマリに注意して施工してください。
- 糊付け後は大きくたたみ、折りジワに注意して、上積みは避けてください。
- 間接照明の場合など使用環境によっては、より下地が目立つ場合があります。

- 壁紙の表示価格や製品仕様は「2022-2025 FAITH」掲載時ものであり、予告なく改定または廃番になる場合があります。最新の価格や製品仕様については弊社営業窓口までお問い合わせください。

床材

接着剤

- 下地の種類や用途に応じて適切な接着剤をご選定ください。

一般工法:AR・PC-2

耐湿工法:WPX・WG

溶接棒

- 溶接棒をご注文の際は床材品番の先頭アルファベットをYSに置き換えてご注文ください。

例:PM-24001(床材) ⇒ YS-24001(溶接棒)

- 床材の色に合わせた溶接棒があります(熱溶接のために接着部分と床材に光沢の差が生じることがあります)。

- 製法上、柄合わせができませんのでお含みおきください。

- キャスター付き重量物の移動が想定される場合、ウレタン・エポキシ樹脂系接着剤をお使いください。

防滑性について

バランスの良い適度な防滑性が転倒事故を防ぎます。

床材の安全性を考える上で防滑性は一つの重要な要素となります。

滑りすぎる床はもちろんのこと、極端に滑りにくい床もつまづきや転倒の危険性があり、空間に応じて適度な防滑性が要求されます。

試験方法・・・JIS A 1454 高分子系張り床材試験方法「滑り性試験」

東京工業大学(現 東京科学大学)の小野研究所が開発した滑り試験機によるOY-PULL法にて試験を行っています。実際の歩行に最も即している試験方法といわれ、滑り片に実際に使用する履物の底を貼り付け、80kgfの荷重をのせ、18°の角度で引っ張った時に得られる最大引張り荷重を測定し、その値を載荷重量(80kg)で除した値(C.S.R値)をすべり抵抗の評価指標としました。

サンゲツではA+もしくはA評価の床材を防滑床材と定義しています。

● 防滑床材について

※「防滑シート」に掲載の床材をC.S.R値に応じて 防滑ランクA+ 防滑ランクA に分類して表示しています。

	評価	基準となるC.S.R値	
▲ 防滑床	A+	水+ダスト = 0.53以上且つ水+ダストと乾燥状態のC.S.R値差0.29以内	防滑ランクA+
	A	水+ダスト = 0.5以上	防滑ランクA
一般床 ▼	B	水+ダスト = 0.4以上0.5未満	
	C	水+ダスト = 0.4未満	

※JIS A 1454すべり性試験結果のC.S.R値に基づき、評価A以上を防滑床材としています。

※数値が大きいほど滑りにくいことを表しています。優れた防滑性の条件とは、「乾燥状態」と「水+ダスト」の防滑性能の差が小さいことです。